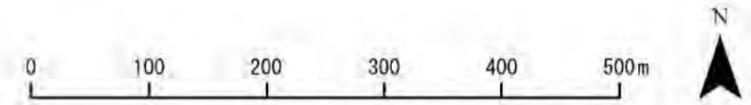


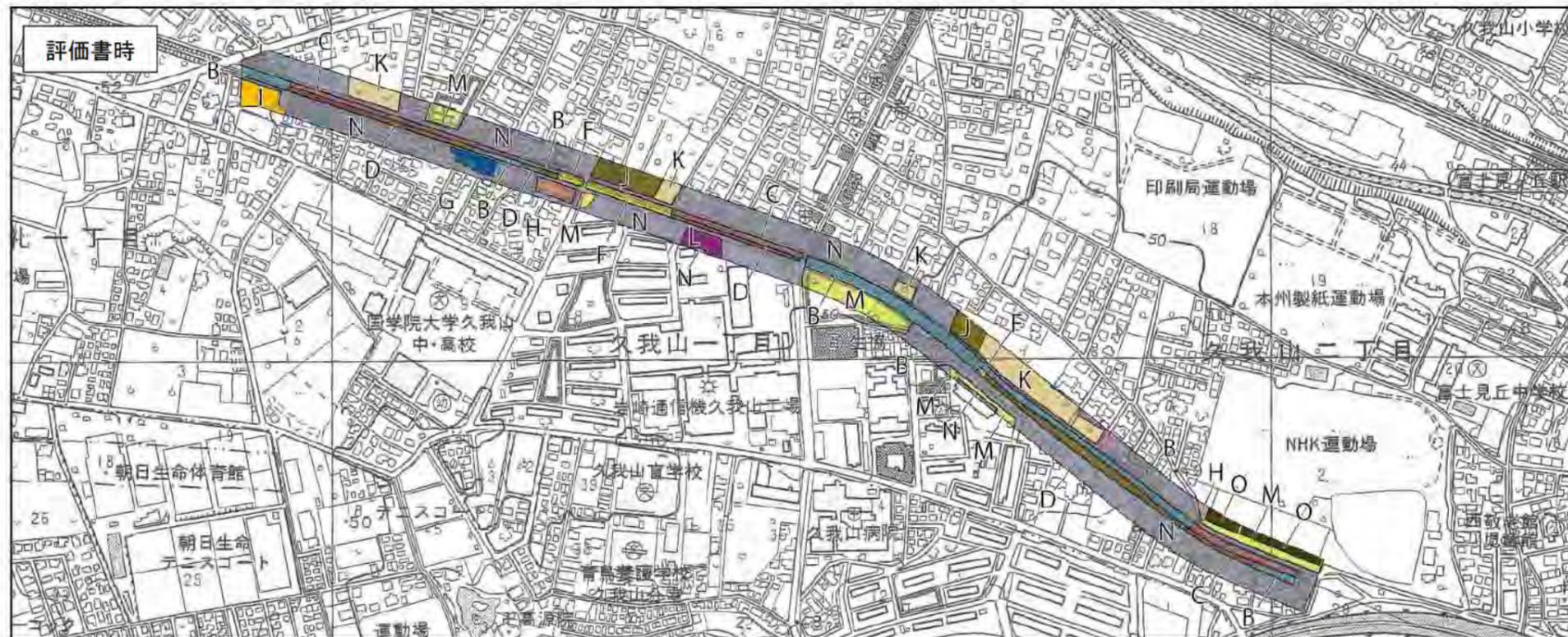


凡例

- |   |                    |   |               |  |      |
|---|--------------------|---|---------------|--|------|
|  | A, クスギ・コナラ群落(保全区域) |  | E, モウソウチク林    |  | 事業区域 |
|  | B, ムクノキ・ケヤキ林       |  | F, クサボケ・ススキ群落 |  |      |
|  | C, ソメイヨシノ植栽地       |  | N, 住宅・学校・道路など |  |      |
|  | D, ヒノキ植栽地          |  | P, 緑地帯及び築堤    |  |      |

図 3-7 事業区域の植生図 (工事中)





### 凡 例

- A :クヌギ・コナラ群落
- B :ムクノキ・ケヤキ林
- C :ソメイヨシノ植栽地
- D :ヒノキ植栽地
- E :モウソウチク林
- F :クサボケ・ススキ群落
- G :エノコログサ・メヒシバ群落
- H :人工シバ草地
- I :果樹園
- J :苗 圃
- K :畑
- L :屋敷林など残存樹群
- M :団地・公園などの植栽樹群
- N :住宅・学校・道路など
- O :人為裸地
- P :緑地帯及び築堤

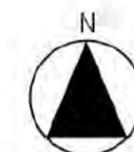


図 3-8 事業区域の植生図（評価書時）

ウ) 注目される植物群落

現地調査で確認した注目される植物群落を表 3-8 に、確認地点を図 3-9 に示す。

調査地域で確認した注目される植物群落は、評価基準①の「玉川上水両岸の樹林帯」に該当する、クヌギ・コナラ群落（保全区域）、ムクノキ・ケヤキ林、ソメイヨシノ植栽地、ヒノキ植栽地とした。

表 3-8 注目される植物群落

植物群落	評価書	工事中	評価基準	
	(2002)	(2019)	①	②
クヌギ・コナラ群落		○	E	
ムクノキ・ケヤキ林	○	○	E	
ソメイヨシノ植栽地	○	○	E	
ヒノキ植栽地	○	○	E	
合計	3	4	4	0

記号凡例

①「第2回緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」（1983、環境庁）における特定植物群落の選定基準

E：郷土景観を代表する植物群落、特にその群落の特徴が典型的なものとして、「玉川上水両岸の樹林帯」が選定されている。なお、環境影響評価書（2002、東京都）では、小金井市桜町上流部にクヌギ・コナラ林が玉川上水両岸を覆っていること、小金井市桜町下流に、古くより小金井のサクラとして知られた名勝の地があり、両岸に桜並木が続いている等により、「玉川上水両岸の樹林帯」を注目される植物群落として選定しており、本報告書でも踏襲した。

注目される植物群落の植生自然度は表 3-9 をもとに区分した。注目される植物群落の自然度を表 3-10 に示す。注目される植物群落は、高木林は自然度 6 から 7 を示した。

表 3-9 植生自然度区分の概要

植生自然度	概要	備考
1	市街地，造成地	植生のほとんど残存しない地区。
2	農耕地（水田・畑地）	水田・畑地等の耕作地。緑の多い住宅地。（緑被率 60%以上）
3	農耕地（樹園地）	果樹園，桑畑，茶畑，苗圃等の樹園地。
4	二次草原（背の低い草原）	シバ群落等の背丈の低い草原。
5	二次草原（背の高い草原）	ササ群落，ススキ群落等の背丈の高い草原。
6	造林地	常緑針葉樹，落葉針葉樹，常緑広葉樹等の植林地。
7	二次林	クリーミズナラ群落，クヌギ・コナラ群落等，一般には二次林と呼ばれる代償植生地区。
8	二次林（自然林に近いもの）	ブナ，ミズナラ再生林，シイ・カシ萌芽林等，代償植生であっても，特に自然植生に近い地区。
9	自然林（極相林またはそれに近い群落構成を示す天然林）	エゾマツトドマツ群集，ブナ群集等，自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区。
10	自然草原（自然草原・湿原）	高山ハイデ，風衝草原，自然草原等，自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区。（⑨，⑩は自然性の高さにおいて同じランク）

（出典）「第2回緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」（1983、環境庁）

表 3-10 注目される植物群落の自然度

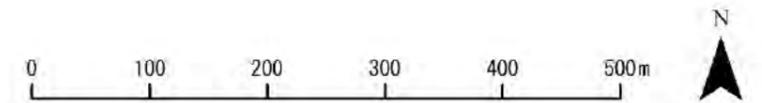
植物群落・土地利用	自然度
クヌギ・コナラ群落	7
ムクノキ・ケヤキ林	7
ソメイヨシノ植栽地	6
ヒノキ植栽地	6



凡例

- A. クヌギ・コナラ群落(保全区域)     調査範囲
- B. ムクノキ・ケヤキ林
- C. ソメイヨシノ植栽地
- D. ヒノキ植栽地

図3-9 注目される植物群落位置図



- ・ 動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

ア. ほ乳類

ア) 確認種

工事中において、表 3-12 に示す 4 目 5 科 6 種のほ乳類を確認した。評価書時には 3 目 3 科 3 種を確認していた。なお、工事中は評価書時に確認した種を全て確認しており、工事中には新たにタヌキ、ハクビシン、クマネズミ属を確認した。

確認種のうち、公園や草地、畑等の土中を生息空間とするアズマモグラが最も多く見られた。また、まとまった樹林が必要であるタヌキは、玉川上水沿いに足跡やため糞等の痕跡が見られたことから、移動経路として利用していると考えられる。アブラコウモリは玉川上水沿いの樹林内や上空等の林縁で捕食する姿が見られた。これらの確認されたほ乳類は市街地において一般的に見られる種であった。

なお、トラップ調査においては、ほ乳類は捕獲されなかった。

表 3-12 ほ乳類確認種一覧

No.	目	科	種名	評価書 (2001～2002)	工事中 (2018～2019)
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ※ <sup>1</sup>	○	○
2	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ※ <sup>2</sup>	○	○
3	ネコ	イヌ	タヌキ		○
4		ジャコウネコ	ハクビシン		○
5	ネズミ	ネズミ	ドブネズミ	○	○
6			クマネズミ属		○
—			ネズミ科		○
合計	4目	5科	6種	3種	6種

※<sup>1</sup> 評価書での記載はモグラであったが、現在は分類体系が変わり種名はアズマモグラと表記した。

※<sup>2</sup> 現地調査でコウモリ類の飛翔の目視に合わせて、バットディテクターにより 40～45kHz 帯の超音波を感知したことから本種と判断した。

イ) 注目される種

工事中において確認したほ乳類の注目される種は表 3-13 に示すアズマモグラ 1 種であった。評価書時はアズマモグラの 1 種を確認していた。注目される種の確認地点図を図 3-10～14 に示す。

アズマモグラは、土中のミミズや昆虫類を主な餌とするため、新たに整備された緑地（玉川上水緑道）や高井戸公園予定地（旧 NHK 富士見ヶ丘運動場）、畑地といった表土が露出している場所で多く確認された。本種の確認内容（フィールドサイン）は塚又は坑道であった。

表 3-13 注目される種（ほ乳類）

No.	目名	科名	種名	評価書 (2001～2002)	工事中 (2018～2019)	評価基準					
						①	②	③	④	⑤	⑥
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ	○	○						留意種
合計	1目	1科	1種	1種	1種	0	0	0	0	0	1

記号凡例

⑥ 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）区部」（2013年、東京都環境局自然環境部）

留意種：現在は広く分布し、当面の絶滅のおそれはないが、孤立化した個体群が多く、広範囲から消失するおそれがあるため。